2020年度 専攻科 新入生のご紹介

「神はおられる」

眞柄 光久（神学専攻科）

大井バプテスト教会

自分の人生を振り返ってみると、「確かに神はおられる（マタ１：２３）」と確信するのです。そして、今まで共にいてくださった神は、これからも共にいてくださる。その恵みと希望で東京バプテスト神学校での学びにあずかっています。

私が献身を決意したのは２４年前の１９９６年。４６歳の時でした。しかし、神は簡単には私の思いを実現させてはくれませんでした。それから約２０年経って、６５歳になった２０１５年、日本聖書神学校で月本昭男先生の講演を聞きに行ったのが縁で、そのまま同校に入学し、今年３月卒業しまして、今、東京バプテスト神学校専攻科生として学んでいます。

７０歳になりました。髪は白く、うすくなり、体型はりっぱなメタボ。どこからどうみても「じいじ」です。しかし、私のこころの奥底に神への熱い思いが宿っていることは神のみぞ知るなのです。

「その歳でよく牧師をめざすね。招聘してくれる教会なんてないよ」と、こころがめげるような失礼な質問をされる方がいます。しかし、私は「神のみぞ知る。私は従うだけです」としか言えません。ある日の早天の祈りの中で、神は「お前の行く先は既に決めておる。心配せずに、お前は私を信じて、ついてくればいいのだ」と示されました。その神の約束を信じて、東京バプテスト神学校での学びにいそしんでいきたいと思っております。

日本聖書神学校での学びを終えてはっきりと言えることは、「学びに遅すぎることはない」ということです。年齢ゆえに、神学校への入学を躊躇される方もおられると思います。特にギリシャ語、ヘブル語などの語学は大変かもしれません。活用は無数にありますし、覚えるのは至難の業です。でも、考えてみてください。古代ギリシャ語、ヘブル語のネイティブなんてだれもいないのですよ。正しい発音はわからないのです。要は、意味がわかればいい。辞書、参考書、解説書など助けてくれるものはたくさんある。それよりも、なによりも、神が助けてくださる。「苦しい時の神頼み」けっこう。ひょっとすると、それほどの苦しみの経験をしていないから、神頼みができないのではとも思わないでもありません。

なにごとも、神はその人にとって最善の時をさずけてくださる。カレブもそうでした。４０年間荒野をさまよい、８０歳になった時、「この山地をください（ヨシュア記１４：１２）」とあえて困難に挑む。困難だったからこそ、カレブにとっては最善の神の時だったのではないでしょうか。神はその後あふれるほどの恵みと祝福をカレブに与えました。

これからも多くの人が神学校に招かれますように。特に年齢の高い方々、「自分の人生ってなんだったんだろう」とか、「あっという間に何十年、なにもできなかったなあ」と頭をうなだれる方々、共に、神の意図される人生を成し遂げようではありませんか。

末永 美奈子（教会音楽専攻科）

日本バプテスト同盟　横浜南キリスト教会

教会で奏楽の機会を与えられ、一つ一つの讃美歌の背後にある時代背景や作詞作曲者の想い、礼拝での常識などを知りたいと思い、９年前の秋、公開講座を受講後、聴講生となり、翌々年春に教会音楽本科に入学しました。この年は教会音楽科の学生が豊かに恵まれ、既学生２名と同期５名、聴講生２名でのスタートとなり、それぞれの教会での賛美や奏楽・礼拝と、そこに仕える姿勢に刺激を受けながら、学びの多くを助けられ、熱心なご指導を受け、神学・音楽・信仰に加え、私の生涯にとても大切なことをたくさん学ぶことができました。

当時は自宅から1時間半のバプテスト連盟の教会に在籍していましたが、卒業時には闘病中の家族がかなりの介護を必要とする状態になり、教会へ通うことが困難になっていましたので、祈りつつ主の導きを信じ、昨年７月に自宅近くの日本バプテスト同盟・横浜南キリスト教会に転会しました。毎春、専攻科への進学の決断と改めて向き合い、「今年は難しい」という結論を繰り返し、この度、５年の待機期間を経ての専攻科入学の道が開かれました。バプテスマ、本科入学時と同じく、神さまのご計画は私の時期判断が大きく的を外しているということを示されます。今回も「えっ？ひょっとして今ですか？」と感じると同時に、身の周りの様々な事柄が整い始めたので、今何も考えずに神さまにゆだねようと決心しました。

本科で学びを始めた時、順調に思えていた家族がバプテスマを目の前に教会を離れました。現在も家族に信仰の喜びを共有できる者はいません。家族への伝道を祈り、痛みを知っている者だけに見える景色があります。同じ景色を見ている隣人に寄り添い祈りを共にし、音楽や音楽以外のあらゆることを通して、神さまの与えてくださる道を歩みたいと思います。

今回、コロナウィルス感染対策のために、神学校の授業も入学礼拝やその準備も、調整と検討と変更を重ね、多くの配慮と祈りの中で進められています。残念ながら対面授業が基本である教会音楽科の授業が休講になっていますが、「あなたには一度に全部を手掛けられないでしょう？」という神さまの声が聞こえています。髪の毛1本をもご存じの主の御声です。

私の進学の願いを長く祈り続けてくださった兄弟姉妹に、溢れる感謝を申し上げます。そして、共に学ぶ学生と、先生方、神学校に関わってくださるすべての方々と、この学びが護られますよう、また、神学校での学びを願い祈っておられる方々を覚え、続けて祈っていただけたら幸せです。

「キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。」

コロサイの信徒への手紙３章 16 節

本科・信徒リーダー養成科 入学者のご紹介

遠藤 守（神学本科）

鮫バプテスト教会

教会と関わりをもってから約２０年、洗礼を受けてから約５年、東京から遠く離れたここ青森県八戸市で神様の学びを始めることができたことに感謝しています。

現在無牧の鮫バプテスト教会は、私にとっても家族にとっても、珠玉の思いが詰まった大切な教会です。その教会員の皆様に応援されながら人生の中盤を過ぎた今から、明確な意図をもって新しい歩みを踏み出せたことに本当に神様の力強い御力と名誉を感じています。

神学校での学びは、今までの実務的な学びとは全く様相を異にし、まさに終わりのない、結論のない学びであると思います。しかし学ぶこと自体に神様の福音があると私は考えております。またライブ授業の臨場感は想像以上にリアルで、新型コロナウイルスとともにある現在の閉塞感から何か新しい可能性を感じられたことも喜びでした。

かなり頭がさびついていて、研磨しながら学ぶ日々ですが焦らずじっくりと取り組んで参ります。皆様よろしくお願いいたします。

上原 一晃（神学本科）

篠崎キリスト教会

私は２０１７年４月から聴講生として学びを始め、２０１９年９月信徒リーダー養成コースに入学、２０２０年４月から神学本科に入学しました。私は、２０１２年に勤務先に近い埼玉県の寄居チャペルでバプテスマを受けましたが、両親の介護をするために東京都江戸川区の自宅に戻り、２０１６年から篠崎キリスト教会の会員です。教会では清掃・花当番・教会学校リーダー・執事の奉仕をしています。自宅では両親と３人暮らしです。８８歳の母を８９歳の父がサポートしており、私は、洗濯と買い物、時々炊事が主な担当です。私の仕事は高速道路の料金所での料金徴収等で、当番制で働き、朝８時から翌朝９時過ぎ迄、現在はマスク・フェイスシールド・使い捨て手袋・次亜塩素酸水を常備して働いています。その為神学校の受講は勤務明け、又は休みの日となります。神学校の学びは、もともとは自分自身の学びの為に始めましたが、現在では隣人の癒しと救いの為に何ができるのかを探すための学びに変わり始めています。ですから、単位取得や卒業の為ではなく、聖霊に示された学びを続けたいと思っています。私の神学校の学びを、いろいろな場面でサポートして下さる篠崎キリスト教会の兄弟姉妹に感謝しつつ、喜びを持って学び続けたいと思います。

前村 俊一（信徒リーダー養成科）

筑波バプテスト教会

筑波教会では、月1回の信徒説教奉仕会による信徒説教が行われています。この奉仕会の奉仕者になるには、牧師から打診がありそれを受けてお試し説教を経て、執事会の承認が必要です。私にも打診がありましたが、どうしてもお受けすることが出来ませんでした。

バプテスマを授かって３３年になりますが、２年前に教会学校のリーダーを要請されて引き受けるまではサンデークリスチャンでしたので、説教などとても無理と思ったのです。イエスさまを主と信じる信仰はあっても、３３年間説教を聞いただけでは聖書が点状に頭の中に残っているだけで、聖書の全体像は五里霧中の状態でした。ところがある夜、「「み言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい」（Ⅱテモテ４：２）という命令はあなたにも向けられているのです、それに応えなさい」という啓示を受けました。そこで、それに応えられるようになるために、神学校で聖書の学びを始める決心をしました。

現在ひと月半、ビデオ受講で講義を聴いていますが、毎回新しい世界が拓けていくようです。２年間真剣に学んで、み言葉に養われ、み言葉を語ることのできる信徒になりたいと思っています。

大下 仁（信徒リーダー養成科）

日本基督教団 和戸教会

若い時読んだ本の中に、「キリスト者にとって宣教は本業であり、天職であり、職場は副業である。」とありました。当時は、理解できませんでしたが、職場を終えた今は納得できます。礼拝を守り、交わりを大切に、様々の奉仕を担わせて頂く生活は、喜びであり、主に賜った恵みと受け止めています。また、牧師の目指すまことの教会を建て上げる業に、役員として助けになりたいと心掛けながらも、力不足を痛感する昨今です。こうした時に、東京バプテスト神学校の公開講座に参加する機会を得て、目の開かれる思いをしました。翌年も、夏と冬の講座を受講し、３年目の今年は、「信徒リーダー養成コース」に入学を許可され、感謝しています。

先の本には、「もとになる素材を持たない人は、それを固めることも、修正・発展させることもできない。いつも、借り物、仮のものに頼ることになる。」ともありました。スローペースでも、あせらず学びを進め、その中で信仰のしっかりした素材を身に付けたいと思います。教会での働きを通して、主に豊かに用いて頂けるよう、祈りつつ求めて行きたいと望んでいます。よろしく、お願いいたします。